

## 小松市重点目標

### 未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に育成する学校

#### 授業の質的改革 → 資質・能力を確実に身に付ける児童生徒の育成

- ①児童生徒が 主体的・対話的に学習したくなる授業
- ②児童生徒が 自己の思考を深め、自己表現したくなる授業
- ③児童生徒が 自己の学習をふりかえり、学びを実感できる授業

#### 組織的な体制・環境づくり → 児童生徒に資質・能力を身に付けさせる教員の育成

- ④教職員が 目標や課題を共有し自己の役割に責任を持ち、課題の解決に取り組む
- ⑤教職員が 授業力を高める。切磋琢磨し学校研究に取り組む
- ⑥教職員が 児童生徒が主体的に活動できるように環境を整える

## 令和6年度 学校評価重点計画

小松市立荒屋小学校  
学校長 山本 恭代

### 目指す児童生徒の姿

#### 「じ・も・と」で育つ あらやの子

##### じ 自分で考え行動する。

- ・自分なりの考えを持つ。
- ・よく考え判断する。
- ・よいと思ったことは進んで行う。

##### も もっと良くなろうとする。

- ・より良いものを目指す。
- ・粘り強く最後まであきらめずやりぬく。

##### と 共に学ぶ 思いやる

- ・自分も周りの人も大切にす。
- ・対話し、多様な考えから学ぶ。
- ・感謝の気持ちをもつ。

#### (1) 学校の課題

変化の激しい、予測困難な時代を生きる子ども達にとって、未知なる社会を仲間と共に切り拓いていくための資質・能力を身に付けることが求められている。しかし、新学習指導要領になって、すでに5年目を迎えるものの、教育課程や授業、集団づくりの面で改善していく必要が多い。

そこで、本年度の課題として、「子どもたちに求められている資質・能力」を確実に身に付けるための教育課程の確立と、子どもに委ねる、個別最適な学びと協働的な学びの一体化の充実を目指した授業づくりによる自律した学び手の育成、生徒指導の4つの視点を生かした温かな集団作りを重点とし取り組んでいく。

#### (2) 具体的な方策と検証

##### ① 教育活動全般を通じた主体的な児童の育成

◆カリキュラムマネジメントの確立 (検証：児童の姿の変容、学校評価)

##### ② 子どもに委ねる授業づくり～自立した学び手の育成～

◆個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

(検証：児童の姿の変容、授業と授業づくり振り返りシート)

##### ③ 心身ともに豊かでたくましい子の育成

◆生徒指導の四つの視点を生かした温かな集団づくり

(検証：児童の姿の変容、4つの視点を生かした学級づくり振り返りシート)

##### ④ 安心・安全な学校・学級づくり ◆組織的な学校運営 (検証：学校力向上ロードマップ)